

学校ホームページ用原稿

H30年度 佐賀県学習状況調査・全国学力学習状況調査の分析結果と今後の対応について

小城市立晴田小学校

4月に行われた全国学力・学習状況調査（6年国語・算数・理科）、佐賀県学習状況調査（5年国語・算数）の本校全体の結果をまとめました。

また、生活習慣に関する意識調査について、数値が高かった項目と低かった項目を挙げ、分析と今後の取り組みについてまとめました。

【全体の正答率について】

- | |
|----------------------------------|
| 5年国語科：全体の正答率は 県の平均と ほぼ同じです。 |
| 5年算数科：全体の正答率は 県の平均より 大きく下回っています。 |
| 6年国語科：全体の正答率は 県の平均より 大きく下回っています。 |
| 6年算数科：全体の正答率は 県の平均より 大きく下回っています。 |
| 6年理 科：全体の正答率は、県の平均を やや下回っています。 |

【経年比較について】

同一学年での経年比較では、今年の5年生は、昨年の5年生と比べて、国語科及び算数科においては正答率が大きく上回っています。また、今年の6年生は、昨年の6年生と比べて、国語科及び算数科においては正答率が大きく下回っています。

同一児童での経年比較では、5年生は国語科において昨年度12月調査と比べて、正答率はやや上回っており、算数科においては大きく上回っています。また、6年生は国語科において昨年度12月調査と比べて、正答率はほぼ同じで、算数科においては大きく下回っています。

以上のことから、5年生においては、少しずつ力を伸ばしてきていることが分かりました。また、6年生においては、主に算数科の学力を向上させる必要があることが分かりました。

結果の個人票は、夏休み中の個人面談で配布しました。

本校では、夏期休業中に、職員研修を行って今回の結果を詳しく分析しました。

今後、授業においてどのような手立てをとるか、家庭学習においてどのような取り組みをしていくかについて、2学期当初に保護者の皆様にお知らせします。現在は、具体的な手立てや方法を工夫することによって、日々授業の改善・充実に関する研修に取り組んでいます。

保護者の皆様、本校の取り組みにご協力いただきますようお願いいたします。

～全国学力・学習状況調査，佐賀県学習状況調査の分析結果と今後の対応について～

	分析結果 ○成果、●課題	今後の対応
5年国語	<p>☆全体の正答率は、県平均とほぼ同じである。</p> <p>☆「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言語事項」とともに、県平均とほぼ同じである。</p> <p>☆「書くこと」は、県平均をやや下回っている。</p> <p>○「漢字を読むこと」「ことわざの意味と使い方」「国語辞典の使い方」については、正答率が高い。</p> <p>●「目的に応じて、理由をあげて自分の考えを書く」が、県平均に達していない。</p> <p>●「文章の内容を捉える」「文章全体の内容と構成を考える」が、県平均に達していない。また、「文章の内容を踏まえ、引用や要約をする」の正答率が低い。</p> <p>●ローマ字の読み書きができていない。また、読みの無回答率も高い。</p>	<p>①漢字については、引き続き、毎日の漢字練習で定着を図る。また、読書タイム等を通して、読解力の向上を図る。</p> <p>②様々な場面で話し合う機会や書く機会を意図的に設け、自分の意見とその理由について明らかにさせていく活動を通して、条件に合わせて書く活動を仕組んでいく。</p> <p>③説明文教材における指導時数を十分に確保し、文章を読み通し、内容や構成、要旨を的確に読み取る力をつける。</p> <p>④学習したローマ字を書く場面を意図的に数多く設定し、繰り返し取り組むことでその定着を図る。</p> <p>⑤問題の条件を明確にして解答する学習を取り入れる。</p>
5年算数	<p>☆全体の正答率は、県平均を大きく下回っている。</p> <p>☆「技能」は、県平均とほぼ同じである。「数学的な考え方」「知識理解」とともに、県平均を大きく下回っている。</p> <p>○「小数の加法計算」「同分母の分数の減法」「長さの単位」「立方体の展開図」「資料の数値」等の基本的な問題は正答率が高かった。</p> <p>●「検算のきまり」や「結合法則」の理解について、県平均を下回っている。</p> <p>●「面積についての感覚を身につけている」の正答率が低い。</p> <p>●「展開図を組み立ててできる立体の辺の位置関係を理解している」の正答率が低い。</p> <p>●「伴って変わる二つの数量の関係を調べる」の正答率が低い。</p> <p>●活用問題では、示された考え方を理解し、条件に合った表現方法で記述することができていない。</p>	<p>①基礎的・基本的内容については、引き続きぐんぐんタイム等を活用し、定着を図る。</p> <p>②計算のきまりについては、その意味や方法について十分に復習を行う。</p> <p>③面積については、実際の具体物を用いてその量感をつかませることによって理解させる。</p> <p>④立体の辺の位置関係については、操作活動を土台として、学習内容の定着を図る。</p> <p>⑤自力解決の場面で、問題文を短く切って読む、アンダーラインを引く、考えたことを線や図に表す等の方法を用いる活動を取り入れていく。</p> <p>⑥引き続き、授業の「あいあいタイム」の場面において、説明の仕方のモデルや算数用語を示すことを通して、自分の言葉で説明する活動を積極的に取り入れていく。</p>

	分析結果○成果、●課題	今後の対応
6年国語	<p>☆全体の正答率は、県平均を大きく下回っている。</p> <p>☆すべての観点で、県平均を大きく下回っている。</p> <p>○「相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す」の正答率が高い。</p> <p>●「文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く」の正答率が低い。</p> <p>●「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」の正答率が低く、無回答率も高い。</p> <p>●「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く」の正答率が低い。</p> <p>●「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む」の正答率が低く、無回答率も高い。</p>	<p>①引き続き、様々な場面で意図的に話し合い活動を仕組み、相手の発言の意図を聞き取る活動についても取り組んでいく。</p> <p>②自分の考えや意見等を書く活動を意図的に仕組み、継続して取り組んでいく。その中で、主語と述語のつながりや条件に応じた解答の仕方について指導していく。</p> <p>③無回答が多い理由としては、問題の意味を的確に捉えることができていないことがあげられる。じっくりと問題を読ませ、問われていることを明らかにするために、ラインを引いたり、キーワードを確認したりする等の方法を取り入れていく。そして、条件に応じた解答の仕方について指導していく。</p>
6年算数	<p>☆全体の正答率は 県平均を大きく下回っている。</p> <p>☆「技能」「知識理解」ともに、県平均とほぼ同じである。</p> <p>☆「数学的な考え方」は、県平均を大きく下回っている。</p> <p>○「合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に条件に合う図形を見出すことができる」の正答率が高い。</p> <p>●活用問題では、記述式の問題において無回答率が高い。</p> <p>●「図形の構成要素や性質をもとに、集まった角の大きさの和が360度になっていることを記述できる」「メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる」の正答率が低い。また、示された考え方を解釈し、条件に合った表現方法で記述することができていない。</p>	<p>①引き続き、ぐんぐんタイムなどを利用して基礎的基本的な内容の定着に取り組んでいくとともに、活用問題（過去の学習状況調査問題を含む）にも積極的に取り組んでいく。</p> <p>②題意をきちんと捉える事ができていないので見通しを持つことができていない。まずは問題をていねいに読み、わかっていることについてアンダーラインを引かせる等の手立てをとる。さらに、考えたことを線や図に表す等の活動を取り入れていくとともに、「まず」「次に」「そして」などの言葉を用いて、文章化できるよう支援していく。</p> <p>③過去の学習状況調査問題を活用し、示された方法を適用したり、条件に合った表現方法で解答したりする学習に取り組んでいく。</p>

	分析結果 ○成果、●課題	今後の対応
6 年 理 科	<p>☆全体の正答率は、県平均をやや下回っている。</p> <p>☆「技能」「知識理解」ともに、県平均とほぼ同じである。「思考表現」は、県平均をやや下回っている。</p> <p>○「関節」「たい積」などの理科用語については十分に理解している。</p> <p>●「予想が確かめられた場合に得られる実験結果の見通しを持って実験を構想すること」の正答率が低い。</p> <p>●「より妥当な考えをつくりだすために実験結果をもとに分析して考察し、その内容を記述できる」の正答率が低い。</p> <p>●「実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる」の正答率が低く、無回答率が高い。</p>	<p>①引き続き、理科用語については、まとめや振り返りの際に、意図的に書かせていく。</p> <p>②授業の中で、めあて→予想→実験→結果→考察→まとめ→ふりかえりの流れをしっかりと押さえる。そして、児童に根拠のある予想を立てさせたり、その予想を解決するための実験方法について考えさせたりしていく。</p> <p>③実験結果から考えられることを記述させ、友達と意見交流する時間を意図的に作り、出された考えの中からより良いものを吟味していく活動を行う。</p> <p>④問題をていねいに読み、問われていることについてアンダーラインを引かせる等の手立てをとる。さらに、記述した内容が問われていることに合致しているか見直しをさせる。</p>